

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---------------------------|-------|---|--|-------|----|--------|---|------|------|-----------|---|-----|-----|
| 下関看護 リハビリテーション学校 | | 平成16年3月26日 | 林 研二 | | 〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-4-17 (電話) 03-6734-2939 | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | |
| 学校法人福岡保健学院 | | 平成2年3月20日 | 藤井 茂 | | 〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2-1-12 (電話) 092-607-0053 | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | |
| 医療 | 医療専門課程 | 理学療法学科 | | | 平成19年文部科学省 告示第20号 | - | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 理学療法士として、必要な知識、技術及び豊かな人間性と職業倫理を習得し、専門職としての自覚と誇りを持ち、社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成30年2月27日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | |
| 3 | 昼間 | 2640 | 1230 | 600 | 810 | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | |
| 240 | 168 | | 12 | | 12 | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・講義、実習に必要な時間の出席状況と当該科目の評価により行う。 ・授業科目の評価はA・B・C・Dの4段階とし、C以上を合格とする。 | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■夏 季: 平成30年8月18日~9月2日 ■冬 季: 平成30年12月28日~平成31年1月3日 ■春 季: 平成31年3月9日~3月31日 | | | 卒業・進級 条件 | ・履修すべき科目全てにおいて単位取得の認定をうけたものについては、学校長が卒業を認定する | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、教務部長による面談等 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ・クラブ活動などの課外活動は無し。 ・教科外活動については、カンボジア研修旅行、学校間交流会、地域の清掃活動、市内マラソン大会ボランティアサポート、市内開催祭り参加 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | |
| 就職等の 状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 病院、医療施設、福祉施設等 | | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | |
| | ■就職指導内容 ・関連校と合同で就職説明会を開催、併せて学校独自でも就職説明会を2回開催 ・履歴書記入や就職面接に対応した特別講義開催 | | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士国家試験</td> <td>②</td> <td>52人</td> <td>47人</td> </tr> </tbody> </table> | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 理学療法士国家試験 | ② | 52人 | 47人 |
| | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | | 合格者数 | | | | | | | | | | |
| | 理学療法士国家試験 | ② | 52人 | | 47人 | | | | | | | | | | |
| ■卒業者数 52 人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■就職希望者数 47 人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■就職者数 47 人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■就職率 : 100 % | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■卒業者に占める就職者の割合 : 90.3 % | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■その他 ・大学進学者数: 人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学 の現状 | ■中途退学者 7 名 ■中退率 4.2 % 平成30年4月1日時点において、在学者168名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者161名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・進路変更 | | | ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による面談等のフォロー、学校行事を通してリフレッシュを図る・希望者にはスクールカウンセラーを活用し早期対応 | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援 制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 http://jcore.or.jp/ | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の ホームページ URL | http://www.shimonoseki-reha.jp/ | | | | | | | | | | | | | | |

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業における最新の技術・知識、必要とされる人材像等の意見を反映し授業内容等の工夫をおこなうとともに、企業と連携し社会貢献できる人材育成を目指した臨床実習の環境・内容・指導方法等の工夫を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 学校法人福岡保健学院として教育課程編成委員会を置き、学科の分科会を実施する。外部委員に加えて学科の責任者が内部委員として参加する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|--------------------------|--------------------------|-------------|
| 宮野 清孝 | 地方独立行政法人 下関市立市民病院 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 団体等の役職員・有識者 |
| 荒木 隆博 | 一般社団法人巨樹の会 下関リハビリテーション病院 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 医療系職員実習施設 |
| 安藤 憲祥 | 社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 医療系職員実習施設 |
| 落合 裕之 | 下関看護リハビリテーション学校 | 平成30年7月5日 ～平成31年3月31日 | 学内責任者 |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載。
 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
 ②学会や学術機関等の有識者
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 年2回 9月、3月

(開催日時)
 第1回 平成30年9月19日 10:00～12:00
 第2回 平成31年3月18日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 教育課程編成委員会より以下の指摘を受けた。
 臨床実習や新人教育の観点より、コミュニケーション能力やプレゼン能力など情意面での教育の必要性についての意見が挙げられた。
 【対応策】様々な場面でのコミュニケーション能力向上を目的として、挨拶運動や学年・学科を越えての交流を深めていく。また、自分自身を客観的に捉えるために、実技試験において患者役を担当したり、動画撮影を利用した振り返りなどを行っていく。より臨床

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 学校法人福岡保健学院は、学校と医療・福祉業界が協力して、臨床現場で求められる人材を育成し業界に送り出してきた。特に、実習・演習に関しては業界と連携し、初年次より段階的に業界と連携しながら知識技術のみならず医療人としての倫理・態度の育成に力を入れている。また、授業内容においては、業界の最先端の技術知識について意見交換し適宜改変を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 1年次・2年次には対象者の理解と医療人としてのルールマナーを学ぶ基礎的な演習を実施し、3年次には、最前線の医療現場を経験し、卒業時に必要な知識技術及び自己研鑽できる人材育成を実習先と共同し、指導及び評価を行っている。また、多くの業界現場の経験を得る目的で、課目外において任意で見学及び体験実習を受け入れていただけるよう整備を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|---------|--|-----------------------------------|
| 対人関係演習Ⅱ | 人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。 | 株式会社シダー |
| 生活機能演習 | 医療福祉施設において情報収集及び生活場面の観察を専門的視点をもって実施できる。対象者と適切なコミュニケーションを図ることができる。情報収集及び観察内容を専門用語を用いて記録することができる。 | 老人保健施設 コスモス通所リハビリテーション等 30施設 |
| 臨床実習 | 理学療法の流れを習得し、状況に応じて介入を図る。理学療法士として管理・運営を学ぶ。理学療法の流れを習得する中で、理学療法の意義を考え、チームアプローチにおける理学療法士の役割と機能を学びリハビリテーション医療における位置づけの重要性を知る。 | 一般社団法人巨樹の会 下関リハビリテーション病院 他11施設 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 医療の専門職として社会貢献できる人材育成のため、授業及び学生に対する指導力向上のため、教員に対し研修の参加・研究・学会発表に積極的に取り組むよう促している。具体的には、学校法人福岡保健学院主催の教育研修や関連施設と協力した臨床研修及び研究を行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

| 研修会等名称 | 主催 | 内容 | 教育内容との関係 | 連携先企業 | 開催日 |
|--------|------------|--|-------------------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| 臨床研修 | 学校法人福岡保健学院 | 関連病院にて学生の臨床実習を通して、臨床の現場を把握するとともに現場の指導者と学生指導について意見交換を実施 | 実習中における学生指導について、現状把握と指導方法などの意見交換・実施 | 社会医療法人財団池友会 一般社団法人巨樹の会 | 平成30年4月～10月の実習期間中2～3回/週の頻度で実施 |

② 指導力の修得・向上のための研修等

| 研修会等名称 | 主催 | 内容 | 教育内容との関係 | 連携先企業 | 開催日 |
|-----------------|--------------------------|---------------------------|---|---------------------------|---------------|
| 第37回 合同学術研究発表大会 | 社会医療法人財団池友会 | グループ主催学会(医師・看護・事務・医療技術部門) | 運動器系疾患の理学療法・中枢神経系疾患の理学療法・内部障害系疾患の理学療法など | 社会医療法人財団池友会 一般社団法人巨樹の会 | 平成30年9月9日(日) |
| 第38回 合同学術研究発表大会 | 一般社団法人巨樹の会 学校法人福岡保健学院 | | | | 平成31年2月17日(日) |

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

理学療法士・作業療法士の職能団体、専任教員が所属する学会などの学術大会や研修会に参加。専攻分野の知見を高め、授業内容の充実を図る。
 令和元年 8月 5日～ 9月27日 臨床研修
 令和元年 7月13日～ 7月14日 第25回 心臓リハビリテーション学術集会(日本心臓リハビリテーション学会)
 令和元年 7月13日～ 7月14日 第35回 日本義肢装具学会学術大会(日本義肢装具学会)
 令和元年 8月25日 合同学術研究大会(社会医療法人財団 池友会)
 令和元年 9月 7日～ 9月 8日 中国ブロック理学療法士学会(中国ブロック理学療法士会)
 令和元年 9月28日～ 9月29日 第17回 日本神経理学療法学会学術大会(日本リハビリテーション協会)
 令和元年12月8日 第29回 山口県理学療法士学会

② 指導力の修得・向上のための研修等

令和元年 8月5日・9月14日 福岡保健学院 中央研修 アクティブラーニングについて
 令和元年 8月29日～ 8月30日 第32回 教育研究大会・教員研修会(全国リハビリテーション学校協会)
 令和元年 9月28日・29日 福岡保健学院 中央研修 ICTシステムの活用

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことで、全教職員が学校の状況及び目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|--------------|--|
| (1) 教育理念・目標 | ①教育理念・目的・人材育成像の明確化 ②学生・保護者・学校関係者への周知 ③医療・福祉のニーズとの整合性 |
| (2) 学校運営 | ①事業計画の策定 ②運営組織・意思疎通機能の明確化 ③情報システム化による業務の効率化 |
| (3) 教育活動 | ①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定 ②実践教育の視点に立ったカリキュラム教授内容の工夫 ③医療・福祉実践教育の体系化 ④授業評価実施体制 ⑤教育力向上のための研修の実施 |
| (4) 学修成果 | ①就職率向上への努力 ②退学率・留年率低減の努力 ③国家試験合格率への努力 ④卒業生の状況を教育活動に反映 |
| (5) 学生支援 | ①学生相談及就職相談に関する体制整備 ②学生生活指導及び安全管理に関する体制整備 ③高校や保護者と連携した指導の取組 |
| (6) 教育環境 | ①教材及び教育環境改善の取組 ②臨床実習における環境改善の取組 ③防災に関する体制整備 |
| (7) 学生の受入れ募集 | ①高等学校等への適切な情報提供 ②資格取得・就職状況等の適切な情報提供 |

| | |
|---------------|---|
| (8)財務 | ①中長期的な学校の財務基盤の安定 ②予算・収支計画の妥当性 ③会計監査の適切な実施 |
| (9)法令等の遵守 | ①法令・設置基準等の順守と適正な運営 ②個人情報保護対策 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | ①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献 ②学生ボランティア活動 |
| (11)国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員会から以下の意見が出された。

1.(意見) 学生募集に関して、高校生への理学療法を知ってもらうための啓発活動を行っているが、中学生も対象に啓発活動を行っているかどうか。→(活用) 山口県内の中学校に働きかけて、中学校の就職講話等を実施。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|--------------------------|-------------------------|---------------|
| 安岡 克昌 | 下関市議会 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 地域住民からの評価委員 |
| 綿谷 昌明 | 医療法人社団泉仁会 宇部第一病院 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 専門分野における業界関係者 |
| 小河 一彦 | 一般社団法人巨樹の会 下関リハビリテーション病院 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 専門分野における業界関係者 |
| 宇都宮 功一 | 地方独立行政法人 下関市立市民病院 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 卒業生からの評価委員 |
| 山口 和也 | 下関国際高等学校 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 高等学校からの評価委員 |
| 加藤 善敏 | 下関市役所 福祉部長寿支援課 | 平成30年7月5日 ～令和2年3月31日 | 地方公共団体等の関係者 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 8月

URL:<http://www.shimonoseki-reha.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全体の教育の質の保証・向上の観点から、以下の内容をHPで情報公開を行い、学校運営の透明性を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|--|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | ①校長名 ②所在地 ③連絡先 ④学校の沿革 ⑤学校の特色(教育活動・カリキュラム等) ⑥教育目標 ⑦運営方針 ⑧教育指導計画 ⑨学校行事計画 |
| (2)各学科等の教育 | ①入学者選考の方針及び方法 ②定員数 ③教育課程 ④進級及び卒業要件 ⑤資格取得 ⑥卒業生数及び卒後の進路状況 |
| (3)教職員 | ①教職員数 ②教職員の組織及び専門性 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | ①キャリア教育への取組状況 ②企業等との授業等の取組状況 ③就職支援の取組状況 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | ①学校行事への取組状況 ②課外活動等の状況 |
| (6)学生の生活支援 | ①生活支援の取組状況 |
| (7)学生納付金・修学支援 | ①学生募集及び納付金の取り扱い ②就学支援の内容 |
| (8)学校の財務 | ①資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表 |
| (9)学校評価 | ①自己点検及び自己評価報告書 ②学校関係者評価による改善方策 |
| (10)国際連携の状況 | |
| (11)その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.shimonoseki-reha.jp/>

授業科目等の概要

| (医療専門課程 理学療法学科 昼間コース) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|---------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | |
| ○ | | | 心理学 | 対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。リハビリテーション治療過程にかかわる学習理論、動機付けを理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 統計学 | 基礎的な統計処理を学習し、理学療法に必要な臨床研究の基礎を養う。 | 2年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 情報処理 | コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究、レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 物理学 | 人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 基礎教養 | 文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。文章の基本となる文章構成を理解し、説得力のある文章論理的な文章表現力を身につける。文章表現だけでなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 対人関係演習Ⅰ | 医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 対人関係演習Ⅱ | 人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。 | 1年後期 | 30 | 2 | | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 解剖学Ⅰ | 正常な人体の動物機能にかかわる骨・筋及び神経系の形態と構造を理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 解剖学Ⅱ | 正常な人体の動物的機能の特に神経系の形態・構造を理解する。正常な人体における植物系機能（呼吸・代謝・成長など）並びに意識的感覚や精神機能にかかわる形態・構造を理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程 理学療法学科 昼間コース) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|----------|--|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 生理学Ⅰ | 生理学の基礎である細胞生理について理解した上で、ヒトの生理学的(植物)機能を理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 生理学Ⅱ | ヒトの動物性機能を理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 運動機能学Ⅰ | 身体の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経)と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 運動機能学Ⅱ | 下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。姿勢保持機構と正常歩行について理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 運動機能学演習Ⅰ | 人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。神経の走行・筋の支配神経について理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 運動機能学演習Ⅱ | 人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。神経の走行・筋の支配神経について理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 人間発達学 | 身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。 | 2年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 医学概論 | 医療倫理、健康と病気概念、疾病の分類を学び、疾病の診断と治療の概要を理解する。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 病理学概論 | 疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える。医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程 理学療法学科 昼間コース) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|----------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|---|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | | |
| ○ | | | 整形外科学 | 整形外科領域のリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。 | 2年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| ○ | | | 内科学 | 内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査及び治療を理解する。 | 2年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | |
| ○ | | | 神経内科学 | 神経内科領域におけるリハビリテーション対象疾患の疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。 | 2年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 臨床心理学 | 人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法などの心理療法を理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | ○ | |
| ○ | | | 精神医学 | 精神疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。 | 1年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | ○ | |
| ○ | | | リハビリテーションと理学療法 | リハビリテーションと理学療法の理念、対象、実践課程の概要を理解し、今後学ぶ内容に向けての準備とする。 | 1年前期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | |
| ○ | | | 基礎理学療法学Ⅰ | 理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。 | 1年前期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | |
| ○ | | | 基礎理学療法学Ⅱ | 理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。 | 1年後期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | |
| ○ | | | 生活機能演習 | 医療福祉施設において、情報収集及び生活場面の観察を専門的視点をもって実施できる。対象者と適切なコミュニケーションを図ることができる。情報収集及び観察内容を専門用語を用いて記録することができる。 | 2年後期 | 30 | 1 | ○ | △ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ |

授業科目等の概要

| (医療専門課程 理学療法学科 昼間コース) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|-------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 臨床運動学演習 I | 理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することができるようになることを目標とする。 | 1年後期 | 30 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 臨床運動学演習 II | 異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的にできるようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。 | 2年後期 | 30 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 評価学演習 I | 理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関した理解し実施及び記録できることを目標とする。 | 1年前期 | 60 | 2 | △ | ○ | | | | ○ | | |
| ○ | | | 評価学演習 II | 評価学演習 I にて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。 | 1年後期 | 60 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 評価学演習 III | 評価学演習 I および評価学演習 II にて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施及び記録できることを目標とする。 | 2年前期 | 60 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 運動療法学演習 | 運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。 | 1年後期 | 60 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 物理療法学 | 種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。症状に応じた適切な物理療法を選択できる。 | 1年後期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 日常生活活動学演習 I | 日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を開設するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。Self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 | 2年前期 | 30 | 1 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程 理学療法学科 昼間コース) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|----------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 日常生活活動学演習Ⅱ | 障害に応じた移動補助具を選択するとともに、それらの活用及び指導技術を習得する。Self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。ADL評価の意義および検査方法を理解する。 | 2年後期 | 30 | 1 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 義肢学 | 義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ | 2年前期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 装具学 | 装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。 | 2年後期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 中枢神経系障害の理学療法学Ⅰ | 脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。 | 2年前期 | 60 | 2 | ○ | | △ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 中枢神経系障害の理学療法学Ⅱ | 中枢系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。 | 2年後期 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 運動器系障害の理学療法学Ⅰ | 運動器系障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な運動器系疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。 | 2年前期 | 60 | 2 | ○ | | △ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 運動器系障害の理学療法学Ⅱ | 運動器系障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な運動器系疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。 | 2年後期 | 60 | 2 | ○ | | △ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 内部系障害の理学療法学Ⅰ | 代謝疾患のおよび循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。 | 2年前期 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 内部系障害の理学療法学Ⅱ | 呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。 | 2年後期 | 60 | 2 | ○ | | △ | ○ | ○ | | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程 理学療法学科 昼間コース) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|------------|--|---------|------------------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 小児疾患の理学療法学 | 小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。 | 2年後期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 理学療法学技術演習Ⅰ | これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床場面で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、運動器系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。 | 2年前期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 理学療法学技術演習Ⅱ | これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床場面で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。 | 2年後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 理学療法学総合学習 | 臨床実習の経験を元に、専門基礎科目・専門科目の知識の統合を図り、国家試験受験に値する総合的な力をつけることを目標とする。 | 3年後期 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 生活環境学 | 障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。 | 2年後期 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | △ | | ○ | |
| ○ | | | 地域理学療法学演習 | 地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。地域リハビリテーションに関わる他職種の仕事についてその概略を説明できる。 | 3年前期 | 30 | 2 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床実習 | 理学療法の流れを習得し、状況に応じて介入を図る。理学療法士として管理・運営を学ぶ。理学療法の流れを習得する中で、理学療法の意義を考え、チームアプローチにおける理学療法士の役割と機能を学びリハビリテーション医療における位置づけの重要性を知る。 | 3年 | 810 | 18 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 合計 | | | | | 51科目 | 2640単位時間(107単位) | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---------------------------|-----------|-----|
| 卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者 | 1 学年の学期区分 | 2期 |
| 履修方法：講義・演習・実習により履修する | 1 学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。